

フェリーからのんびり行ける

# 新しい “メイドイン徳島”に出会う旅

豊かな自然や土壌が育んだ文化に惹かれ、新世代の移住も多い徳島。近年は移住者が盛り上げる、新ローカルカルチャーに注目が集まっています。そんな街の“今”を体感できるスポットを目指し、いざフェリートリップへ。

写真/竹田俊吾 取材・文/杉田裕路子 協力/南海フェリー



絶景パノラマを臨む  
2時間の快適クルージング



2019.12 START

## フェリーあい

“I(私)・愛・阿波藍”をコンセプトとした、和歌山港と徳島港を結ぶ南海フェリーの新造船「フェリーあい」。船の内外装は藍色を基調とし、阿波和紙や藍染めといった徳島の伝統工芸をイメージしたデザインが随所に。リクライニングシートやソファを備えたグリーン席のほか、女性専用のじゅうたん席も登場し、船旅がさらに楽しく快適に！  
和歌山営業所 ☎073-422-2156 / 徳島営業所 ☎088-636-0750  
HP: nankai-ferry.co.jp



気持ちいい景色がいっぱい！



グリーン席から見た、見晴らしの良い景色。

**とくしま好きっぶ**  
[南海・なんば駅→和歌山港駅/和歌山港→徳島港]  
きっぷの内容 南海電鉄全駅から和歌山港までの電車割引乗車券(途中下車不可)と、和歌山港～徳島港の南海フェリー乗船券。  
金額 大人2,200円 小人1,100円  
旅の行程 7:02 なんば発→8:17 和歌山港着、8:30 和歌山港発→10:35 徳島港着(日帰りの場合は、18:55 徳島港発がなんば駅へ戻る最終便)  
購入方法 発売機で当日購入のほか、駅窓口では発売期間内の乗車日1か月前から事前購入も可能。  
問い合わせ  
南海テレホンセンター ☎06-6643-1005(8:30～18:30)  
南海フェリー徳島営業所 ☎088-636-0750(9:00～18:00)



※掲載価格は一部を除き、税込み価格で記載しています。



手作りのカルダモンアイス350円。

2018.6 OPEN

## 白草社 しらくさしゃ

大阪から移住した元編集者の乾 亮太さんが「祖母を訪ね、幼い頃からよく来ていた美馬で、大好きな本とカレーを楽しむ場を」と開いた、美馬の青トウガラシなど地元食材を使ったカレーとZINEを楽しむお店。今後はオリジナルZINEも発行予定と、うれしい知らせも！

徳島県美馬市穴吹町吹字大平33-1  
①11:30～14:00、18:00～20:30  
(土・日11:30～17:00) すべてLO  
②水&月1回不定 可 可 可 12  
IG: @shirakusasha  
アクセス: JR穴吹駅から徒歩10分



豆の煮込みやココナッツのふりかけなどのおかずと混ぜて味わう、スリランカカレーを基軸としたカーラカリア1,200円。2種のカレーから1種を選ぶ(写真はチキンカレー)。スパイシーな自家製コーラ500円とぜひ。



香川県の「プシブシーナ珈琲」のコーヒー(インド産)はテイクアウトもOK。450円

コーヒー片手にうだつの町並みへ！



2020.3 OPEN予定

## うだつ上がる

「伝統的な建築を生かし、新しい風を吹き込めたら」と、大阪出身の建築家・高橋利明さんが主体となってオープン準備を進める複合施設。町家をリノベーションした店内では、現在、古着屋が不定期でプレオープン中。春には書店、カフェ、家具店などが入居するほか、地域性を生かしたイベントも企画中で、これまでにないスタイルの空間を目指す。今後、新たな徳島カルチャーが生まれる予感大！  
徳島県美馬市脇町大字脇町156  
IG: @udatsu\_agaru(営業日時やオープン情報は上記Instagramにて告知。お問い合わせはudatsuagaru@gmail.comまで)  
アクセス: 市バス「道の駅うだつ」バス停から徒歩2分

2018.7 OPEN

## 藍屋嘉蔵

あいやかぞう  
☎088-692-8723  
(藍屋敷おくら藍住本店)

「藍の魅力の世界に伝えたい」と、[藍屋嘉蔵]として藍商活動をしていた奥村家発祥の地に、ユニークな商店&書房が登場。店内では県内外の藍染作家による作品をはじめ、世界中の藍染めの古布や藍にまつわる書籍を扱う。不定期で藍染めワークショップも開催。  
徳島県板野郡藍住町徳命字須西179  
藍屋敷おくら藍住本店内(藍住町歴史館の館前)  
①9:30～17:00 ②火 可 可 IG: @aiyakazou  
アクセス: 市バス「東中富」バス停から徒歩5分



世界中の藍染めや藍の本がずらり  
幻の商店がハイブリッドショップに



築100年の町家が  
街の新ランドマークに



吉野川に面し街道が交差する交通の要衝であり、藍の集散地として栄えた脇町に残る「うだつの町並み」。名前の由来は、町家の両端に本瓦葺きで漆喰塗りの「うだつ」が多くみられることから。レトロ建築が並ぶエリアに、町家を改装したレストランやホテルなどもオープン予定で、さらに街歩きが楽しいスポットに。

